

# 物質文化

同人言

ここに「物質文化」第1号を送る。つづいて第2号が出るのもまぢかいことであろう。私たちは、この雑誌に大きな願いをこめている。

「もの」をとおして、歴史をあきらかにしようとするかぎりにおいては、考古学も民俗学もおなじはずである。しかし、それぞれの学問の歴史としきたりから、このふたつは異った独自の領域をつくっている。ある時代に文献資料があるかないかは、方法論の上からいえば、かならずしも本質的なちがいではない。ものが、どのような歴史的諸条件のもとでつくられ、使用されたか、あるいは逆にそのものをとおして、背後にある歴史的世界をいかに認識するかは、遺跡・遺物を対象とする考古学の場合にも、また民具などの民俗資料をあつかう民俗学の場合にも、つねに自覚され実践されねばならない問題である。お互いの学問の長所を学びあい、欠陥を克服しつつ、ともに進んでゆくべきであろう。いま、そのために私たちが果すべき仕事は多い。

この雑誌は、考古学と民俗学が共通の課題とする「物質文化」の研究を目的とし、歴史学としての発展のために役立てたい。この願いに、私たちのつたない力をささげ、ひとつひとつ現実のものとしていきたいと思う。志をおなじくする人びとの参加をのぞんでやまない。

以上、編集に参加した同人のひとりとして、この雑誌にたいする抱負をのべさせていただいた。 (お)